

刀剣を身近に感じるための

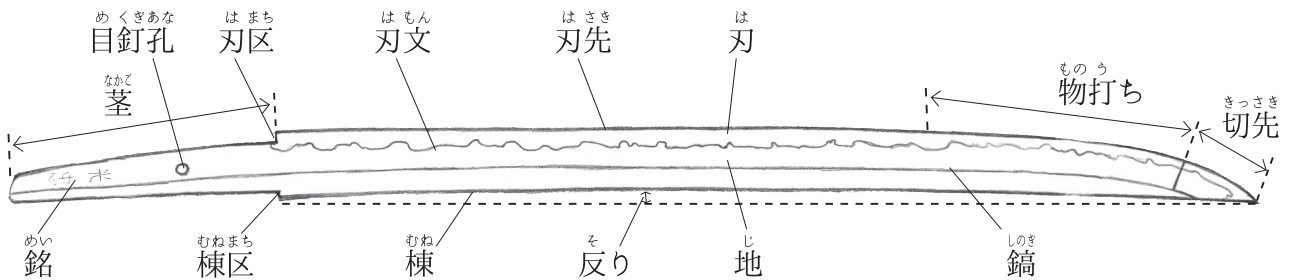
鑑賞用語集

刀剣の説明には難しい専門用語がたくさん使われています。しかし、これらは愛刀家たちが長い歴史のなかで刀剣の見どころを言い表し、分かち合うためにつちかってきた「技術」です。これらの用語と鑑賞のポイントを簡単に紹介します。

■ 素材

刀剣は砂鉄を原料に、「たたら製鉄」と呼ばれる方法で生産される「玉鋼^{たまはがね}」を用いて作られます。玉鋼は、微量な炭素が含まれた純度の高い鉄です。炭素量が多いほど硬く、少ないと軟らかくなる性質があり、熱処理によっても硬・軟の変化が生まれます。

■ 各部名称



■ 姿かたち

刀剣は時代ごとに姿が変わっていきました。その背景には、大きな戦や戦い方の変化、貴族や武士たちの要望などがあると考えられています。太刀の姿で比較してみましょう。

細身で切先にかけて細くなる。茎近くで強く反る。



幅広で切先が大きくなる。厚みが増す。刀身の半ばで反る。



より幅広で切先が大きくなる。長くなる。厚みは薄く、反りは浅くなる。



鎌倉時代に戻ったような形。ただし切先に近い部分も反る。



騎馬戦が主体。馬上での扱いやすさ重視。

源平合戦(治承・寿永の乱)

元寇

後鳥羽上皇が全国から優秀な刀工を招集(御番鍛冶)。刀剣製作の技術が大きく進歩する。

南朝と北朝の抗争

お太刀 大太刀 流行

歩兵戦が主体。軽く薄く、手頃であること重視。

刀(打刀)の流行

お太刀 大太刀を切詰める摩上(きりつめりすりあげ)が流行

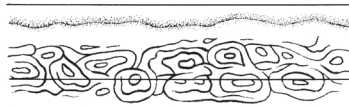
■ 地鉄

地鉄は材料となる鋼そのもののことで、特に刃に対する地の部分を指しています。素材の性質や鍛錬の技術の違いにより、さまざまな模様が現れます。鍛錬とは、鋼の強度を増し、不純物を減らし、材質を均一にするため、高温に熱し折返ししながら打って鍛えることです。

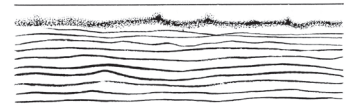
いためはだ 板目肌



もくめはだ 杓目肌



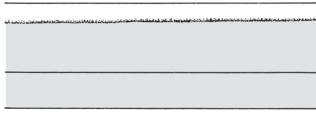
まさめはだ 柂目肌



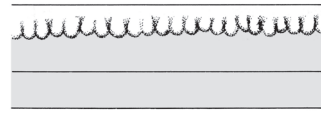
はもん
■ 刃文

刃文は、刃と地との境目にみえる光の帯で、「焼き入れ」の技法によりさまざまな模様が表されます。焼き入れは、鋼を高温状態から急冷し、より硬く変質させる作業です。硬い反面、もろくなるため、刃の部分だけに焼きが入るように、特別な土を塗って調整します。その結果、地と刃は異なる性質になり、境目に刃文が生まれます。刀工の腕の見せ所です。

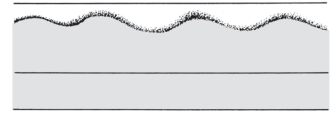
すくは
直刃



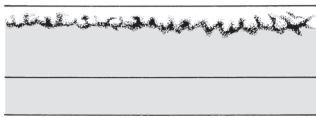
ちようじみだれ
丁字乱



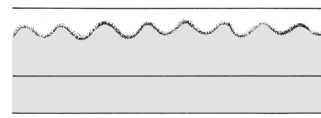
のたれば
湾刃



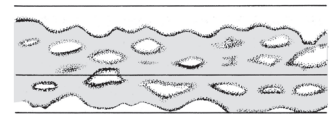
こみだれ
小乱



くめみだれ
互の目乱

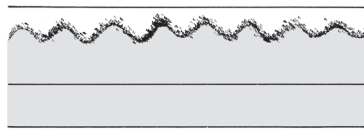


ひたつら
皆焼

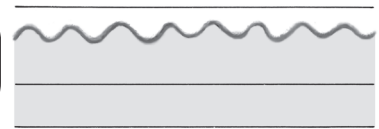


刃文は小さな鋼の粒子が集まってできており、この粒子が目で見える大きさだと「沸」、確認できないほど細かいと「匂」と呼び表されます。

沸が主体の刃文。
星くずのように
強くきらめく。

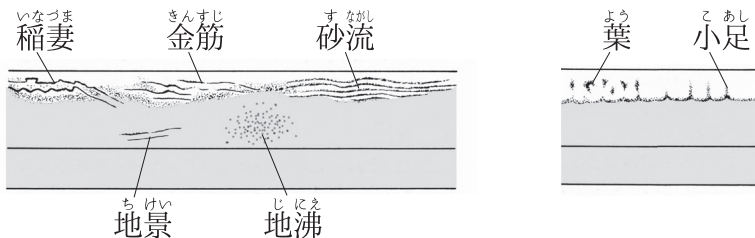


匂が主体の刃文。
朝霧のように
優しく光る。



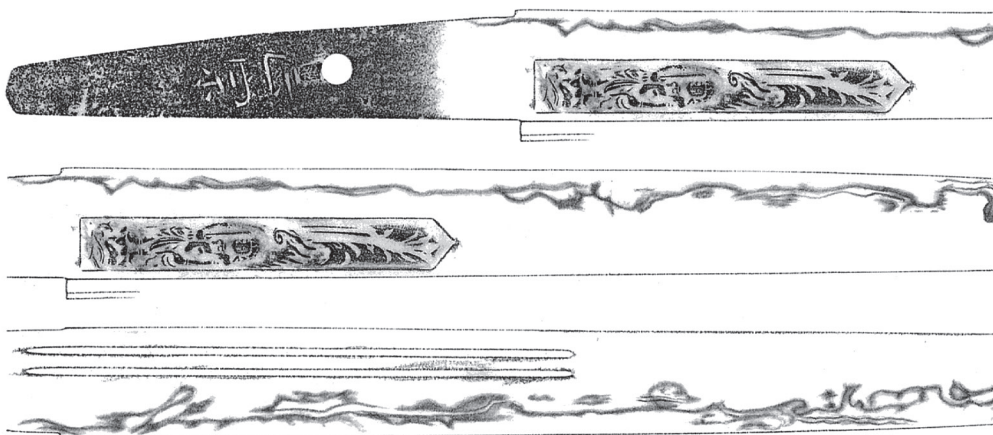
にえ におい
■ 沸と匂による模様

沸と匂は、刃文だけでなく、刃や地の中に現れて、模様を形作っています。



おしかた
■ 押形

押形は、刀剣の特徴を拓本などによって写し取った記録図です。銘や刃文がわかりやすく示されているため、より深く刀剣を鑑賞するための手がかりとなります。



重要文化財
短刀 銘 正宗
名物 不動正宗